

2025.1.29 No.183



立科町 議会だより

目次

議案審議報告	p2～3
常任委員会報告	p4～5
一般質問	p6～11
編集後記	p12

春を待つ
農村空間

令和6年第4回定例会を12月3日から12月12日までの10日間の会期で開き、
条例や補正予算などについて審議を行った。

【結果の表示】 ◎ 全会一致で可決・承認・採択

◇専決処分（1件）	結果
令和6年度立科町一般会計補正予算（第3号） 900万円を追加し、総額59億19万6千円とするもの。第50回衆議院議員総選挙・最高裁判所裁判官国民審査の執行に伴い、県委託金及び選挙執行経費を増額補正するもの。	◎
◇条例の一部改正（2件）	結果
一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例制定 長野県人事委員会勧告により、職員及び会計年度任用職員の月例給及び月例報酬を増額改定し、併せて特別職、議会議員、職員及び会計年度任用職員の賞与等を増額改定するもの。	◎
立科町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例制定 減収補填措置の適用期限が延長されたことに伴い改正するもの。	◎
◇補正予算（4件）	結果
令和6年度立科町一般会計補正予算（第4号） 6,394万1千円を追加し、総額59億6,413万7千円とするもの。歳入の主なものは、ふるさと寄附金の実績見込みにより5千万円増額補正するもの。歳出の主なものは、橋梁長寿命化修繕工事費3,413万7千円、地区要望の舗装、側溝等の修繕料1千万円、農地等災害復旧費1,193万5千円及び給与改定による人件費を増額補正するもの。	◎
令和6年度立科町一般会計補正予算（第5号） 105万3千円を追加し、総額59億6,519万円とするもの。町契約リース車両に係る損害賠償費を増額補正するもの。	◎
令和6年度立科町水道事業会計補正予算（第2号） 六地藏橋水管橋架替工事費1,062万6千円及び給与改定による人件費を増額補正するもの。	◎
令和6年度立科町下水道事業会計補正予算（第1号） 給与改定による人件費を増額補正するもの。	◎
◇その他（4件）	結果
第6次立科町総合計画基本構想の策定	◎
女神湖センターの指定管理者の指定	◎
索道事業の指定管理者の指定	◎
損害賠償の額を定めることについて	◎
◇陳情（4件）	結果
業務報酬基準の準拠と業務内容の明確化について陳情書	◎
価格による入札方式における最低制限価格等の引上げと入札方式に偏らない方式における適正価格の設定について陳情書	◎
建築士事務所賠償責任保険への加入について陳情書	◎
2000年基準前の新耐震基準で建てられた木造住宅を加えた耐震化助成制度の創設・拡充について陳情書	◎



◆討論

一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例制定・索道事業の指定管理者の指定

★賛成 村田 桂子

県の人事委員会勧告通り月例給を0.05～0.1月、期末・勤勉手当とも給付率を引き上げる議案である。今年度より会計年度任用職員にも勤勉手当がつき正規職員と同率となり4月に遡り支給される。寒冷地手当も増額されるが灯油代などの高値が続くことから歓迎したい。

索道事業の指定管理については、樫山スノーテックから白樺高原株式会社が変わった。インバウン

ドの誘客のため新宿、羽田空港などからダイレクトバスの運行、白樺高原周辺のエリア内循環や佐久平駅からのシャトルバスなど2次交通の確保充実は期待したい。町は施設賃貸料を1,200万円に引き上げるほか営業利益の20%も納入予定である。従業員の待遇改善を進め町民の雇用を増やしたことは評価したい。いっそうの安全対策やサービス向上を期待したい。

令和7年 第1回臨時会

令和7年1月14日、臨時会が開かれ、立科町長及び副町長の給料の減額に関する条例制定及び令和6年度立科町一般会計補正予算（第6号）について審議を行った。

【結果の表示】 ◎ 全会一致で可決 ○ 賛成多数で可決

◆条例の制定（1件）		結果
立科町長及び副町長の給料の減額に関する条例制定 町長及び副町長の給料減額について条例制定するもの。 職員の交通事故及び職員の町営住宅使用料（家賃）算定誤りに係る監督責任。		○
◆補正予算（1件）		結果
令和6年度立科町一般会計補正予算（第6号） 2,500万円を追加し、総額59億9,019万円とするもの。歳入では、ふるさと寄附金の増加に伴い、2,500万円増額補正するもの。歳出では、ふるさと寄附金の町外寄附者（個人）に対する記念品代1千万円、町営住宅使用料（家賃）返還金665万6千円等を増額補正するもの。		◎

賛 否 一 覧

議案等番号	議案等の件名	議 員 名											議決結果	
		秦野仁美	宮坂幸夫	小野沢常裕	今井健児	芝間教男	中村茂弘	村松浩喜	森澤文王	村田桂子	榎本真弓	今井英昭		今井清
議案第 1 号	立科町長及び副町長の給料の減額に関する条例制定	○	○	■	○	○	○	■	○	○	○	○	—	可決

※「○」は賛成 「■」は反対 議長の前井清議員は採決に加わりません。

総務経済常任委員会

所 管 総務課・企画課・産業振興課・会計室・議会事務局
委員長／今井健児 副委員長／村松浩喜
委 員／今井英昭 村田桂子 中村茂弘 小野沢常裕

12月10日、付託案件を審査した。主な質疑内容は次のとおり。



一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例制定

Q 月例給の改定状況は。

A 民間給与を基準に改定し結果的に率にはバラつきがあるが、大幅な増額改定となった。

Q 会計年度任用職員の手当てについてはどうか。

A 期末手当は令和2年度から、勤勉手当は令和6年度から支給され4月まで遡つての支給となる。

Q これで職員と同様の期末勤勉手当となるが、影響額はどれほどか。

A 期末手当で363万円、勤勉手当で3669万円の増額支給である。

指定管理者の指定

Q 女神湖センター・索道事業共に公募によらなかったが、その選定理由は。

A 両者ともに、周辺の観光事業者で組織され、地域の現状もよく把握し、地域振興に寄与しているため。

◆女神湖センター

Q 白樺高原観光事業協同組合の納付金はいかほどか。

A 売り上げの1%としているが、今度利益の20%に見直す予定。若干増える予想。

Q 指定管理料は2階建てになっているのではないかと。

A 指定管理料として240万円、それに加え利益の20%という構成になる。

◆索道事業

Q 業者選定のポイントは。

A 索道の運用については高度の専門性・地域の実情把握が必要。マウンテンカート導入など営業努力があり、産業振興に寄与していると判断。

Q 4年前の榎山スノーテックから、しらかば高原株式会社に変更した理由は。

A 榎山スノーテックは、以前から運営委託を同社に行っていた。金銭的に関から融資を受けるほど、信用ができ実績を積み上げてきたため。

Q 同社の出資割合はどうなっているか。

A 資本金は300万円、榎山スノーテックが51株85%、池の

平ホテル・ルミエール・ストリームが各3株5%である。

Q 地元住民との話し合いは足りているのか。

A 懇談会を持ったが参加者は少なかつた。地元の声を行政が伝え、距離感を縮めたい。

Q 「利益の一定割合を納入」についてはどの様に。

A 指定管理料とは別に、利益の20%納入について協議したい。今後の収支見通しについてはどうか。

Q 索道料金が現行のままということでは推計すると、売り上げは同程度、支出は人件費+物価高騰で収益は下がる見通し。

Q この見通しだと料金改定をしなければやっていけないということになる。今後の事業計画は。

A 周辺企業と協力してエリア内循環バス、新宿・羽田空港からは直通バス、リフトの共通券化など誘客を強める。オーストラリア方面へ営業に行き、年間540人の宿泊予定も立ち、外国人インストラクターも導入予定である。

令和6年度立科町一般会計補正予算（第4号）

Q 有害鳥獣捕獲買い上げ金130万円の内容は。

A 11月までに予算より多く鹿が捕獲できて、町が買い上げるため。今後の予想分100頭分を予算化。

Q 鹿の捕獲が増えた理由は。

A 蓼科地区で2名がくくり罠の免許を取得。積極的に40〜50頭を捕獲している。

Q 農業振興経費の新品種・新技術実証試験費とは何か。

A 新規就農者で国の補助制度の対象にはならずJAの事業に応募した来年度就農する農業者に対し、シャインマスカット・クインルージュの苗木と果樹棚購入の補助をする。10・8aであり、約385万円の3分の1。

Q 農地農業用施設災害復旧費1050万円は。

A 桐原の排水をしているU字溝が大雨で壊れた。60mを復旧する。上流部分で使われている丈夫な円筒形の蛇腹管に付け替える。

Q 災害復旧事業補助はどこか。

A 8月の豪雨で田の畔が崩落、11mに渡って補修するものと、柳沢茂田井、山部など合計4箇所分。

社会文教建設常任委員会

所 管 町民課・建設環境課・教育委員会

委員長／芝間教男 副委員長／秦野仁美

委 員／今井 清 榎本真弓 森澤文王 宮坂幸夫

12月9日、付託案件を審査した。主な質疑内容は次のとおり。

質疑 Q & A

令和6年度立科町一般会計補正
予算（第4号）

- Q 障がい者支援事業のシステム改修委託料の内容は。
- A 障がい者自立支援給付支払等システム改修費であり、本年度システム改修を行い、令和7年度から適用するものである。
- Q 遠距離通園費補助金の増額の理由は。
- A 補助金の対象児童が2人増えたものである。
- Q ごみ処理一般経費の修繕料120万円の内容は。
- A 年度末までに必要な収集運搬車両の車検費用等である。
- Q 道路維持管理経費の修繕料1千万円の増額の理由は。
- A 地区要望の舗装修繕や側溝修繕等に対応するものである。
- Q 橋梁長寿命化修繕工事費3413万7千円の増額の内容は。

A 古町屋敷1号橋・上房川東橋における鉛検出に伴う除去対策工事費等である。

Q 橋梁長寿命化修繕工事は、何箇所実施するのか。

A 令和2年度から令和3年度にかけて橋梁点検を実施した。調査対象の66橋のうち、17橋の修繕工事を実施している。

Q 橋梁長寿命化修繕工事に対する国補助金はあるのか。

A 国補助金は、予算配分により事業費の約30%の見込みであり、その他財源として過疎対策事業債を活用予定である。

Q 橋梁長寿命化修繕工事に対する国補助金はあるのか。

A 国補助金は、予算配分により事業費の約30%の見込みであり、その他財源として過疎対策事業債を活用予定である。



古町屋敷1号橋（古町）



上房川東橋（上房）

- Q 工期は。
- A 古町屋敷1号橋・上房川東橋の工期は、令和6年度末である。
- Q 小中学校管理費のネットワークアセスメント業務委託料の内容は。
- A 国の補助金を受け、小中学校のネットワークの構成確認、分析、診断等を実施するものである。
- Q 会計年度任用職員の人件費の増額の理由は。
- A 長野県人事委員会勧告によるもの。



六地藏橋（藤沢）

令和6年度立科町水道事業会計
補正予算（第2号）

Q 六地藏橋水管橋架替工事費の増額の理由は。

A 長野県との河川協議の中で、仮設水管橋の基礎が河川護岸に影響を及ぼすことから、仮設水管橋の施工方法を変更した。施工距離が伸び、構造計算上、強固な水管橋土台が必要になり、増工となるものである。

質問項目

今定例会では、議員 10 人が一般質問を行いました。

しばま のりお
芝間 教男 議員 7 ページ
どうする人口減少。

おのざわ としひろ
小野沢 常裕 議員 7 ページ
農地を守るために、どのようにして次へ引き継いでいこうと
考えているのかを問う。

もりさわ ふみお
森澤 文王 議員 8 ページ
1 学校寮等の団体保有施設の今後について
2 スポーツを絡めた町のPRについて
3 草刈りの補助について

えのもと まゆみ
榎本 真弓 議員 8 ページ
観光に対する行政の役割について

いまい ひであき
今井 英昭 議員 9 ページ
令和7年度予算編成における方針について問う。

むらた けいこ
村田 桂子 議員 9 ページ
1 気候変動・「地球沸騰の時代」への対応は。
2 物価高騰にあえぐ町民の暮らしへの支援策を問う。

はたの ひとみ
秦野 仁美 議員 10 ページ
1 子ども・子育て世代への細やかな支援について
2 これでいいのか。立科教育③ どうなるの？ 部活動地域移行
3 これでいいのか。立科教育④ 小学校の老朽化について

むらまつ ひろよし
村松 浩喜 議員 10 ページ
今年度事業の自己評価と来年度予算編成の方針は。

いまい けんじ
今井 健児 議員 11 ページ
都市農村交流施設「農ん喜村」について

みやさか ゆきお
宮坂 幸夫 議員 11 ページ
1 地域計画策定に向けた地域の話し合いの開催をして
2 ポッチャ競技の実践体験をはじめて
3 デジタル教科書で変わる学びは。
4 庁舎内外の環境改善と領収書の書式変更について
5 隠れ困窮者と老人クラブ活動補助金について
6 蓼科高校の定員数(80人)確保を目指して
7 子ども議会を傍聴して
8 たてしな保育園の周辺環境整備について
9 職員の意識改革と質の向上の為に。
10 今期一般質問の事項でその後の進展状況は。
11 職員の時間外の勤務状況について
12 町かどオフィスの現状について
13 選挙の立会人について

町政について問う！



一般質問の文章は質問者の責任で作成しています。

※太字の質問を掲載。議事録は議会ホームページで閲覧できます。

どうする人口減少

問 第6次立科町総合計画策定を通して町長の人口減少に取り組む意気込みを問う。

町長 人口減少は全国的に進んでいる。当町においても想定以上に人口の減少が速くなっており、この速度を抑えて行く事から本計画では令和17年までの人口目標5350人を確保する事を目標としている。具体的には社会動態を毎年3人の増を見込むものである。

私は、人口減少を抑えていくその中身について、町民と行政、議会、諸団体等と共働のまちづくりを進めて行く事。そこには対話と実践、そして反省。その先の実践がなければ町の将来はないと思っている。

もう一つは、夢のある地域づくりをして行かなければと思う。若い人たちがこの町に住んで頂ける町にしたい。

これはやはり大きなハードルであると思うので、そういうことをしっかりとこれから進めて行きたい。

問 重点的な取り組みに資源を集中し、町づくりの成果を大きなものとする基本的な考え方と予算編成の取り組みは。

企画課長 限られた予算の中で全ての事業に注力することは難しい事から、計画の内容を「総花的」ではなく、特に重点的な施策・事業が明確になるよう策定する。重点的な取り組みに財源や職員などを集中させ、町づくりの成果を大きなものにして行きたいと考えている。

問 反省と見直しが大切「絵に描いた餅」にしないためには何を行なって行くか。

企画課長 当町は、年度毎の自己評価を担当課毎に実施しその妥当性・客観性を担保するため、外部有識者の参画する「立科町総合戦略評価委員会」を開催し、評価・検証を行なってきた。今後も継続して行なっていく。

実施計画においても、評価委員会の意見等を踏まえ、事業等の改善・見直しを行って行きたい。

問 住民の「幸せを感じる」への取り組みを。

町長 多様な人がいつも集い、活気溢れる居場所があり、町民が「幸せを感じる」事ができる町づくりは、まさに「住んで良し、訪れて良し」そのものであり、その事は人口減少抑制戦略で当町が目指すところである。本計画にしっかりと取り組み、「人と自然が輝く町づくり」の実現に向けて邁進して参りたいと考えている。



芝間 教男
しばま のりお

「地域の話し合い」について

問 全12回の地域の話し合いの、延べ出席者数は何名か。またそれは全戸数の何%か。

産業振興課長 延べ出席者数は108名で、全戸数の3・9%になる。

問 地域の話し合いがあることを町民にどのように周知させたか。

産業振興課長 町ホームページ・たてしなびの掲載に加え文書の回覧を行った。

問 広報10月号に載っていないかったのはどうしてか。

産業振興課長 素案の作成に時間を要してしまい、周知が遅れてしまった。

問 目標地図とはどのような地図なのか。

産業振興課長 目標地図は現況地図ではなく、10年後の農地を誰が耕作するかという地図である。

問 担い手を探している農地が分かっているのに、そんな地図はできつこないではないか。

産業振興課長 地域で継続して話を進めながら、耕作者や担い手を判明させて目標地図を完成に近づけたい。



小野沢 常裕
おのざわ ときひろ

問 3月までに地域計画を作らないと国や県から何かペナルティーがあるのか。

町長 直接的なペナルティーは示されていないが、補助事業を活用する場合に採択要件になる場合がある。

農地の次の引き継ぎについて

問 作成した目標地図なるものを提示して、各地区で説明会を開く考えはあるのか。

町長 3月までに地域計画を策定して公表していきたい。

問 町長は9月議会で「たてしな屋」を来年4月に法人化すると答弁したのに、先月変更した。「たてしな屋」を公益法人にしてその業務を行うことにしたらどうか。

町長 人・農地プランで担い手になっているので引き続き活動してもらおう。

問 次の担い手へ引き継ぐための立科町方式案を示す考えはないか。

町長 地域の話し合いを継続すること、当町に適した方式が見えてくるので現時点では作成する予定はない。

問 区や部落で話し合って、独自に始めてしまってもいいのか。

町長 是非とも町の先駆け的モデルとして進めていただきたい。

結び 今日の答弁から、次の二つを指摘しておく。一つ目は、新たな係か法人か、新しい組織を作る必要があること。二つ目は、詳細な調査が絶対に必要であること。



森澤 文王
もりさわ ふみお

草刈りの補助について

問 芦田川等の河川の草刈りについて「住民の高齢化により困難である。なんとかして欲しい」という声が多く出ている。住民の任意団体に補助金を出して、草刈りを任せる段階になっているのではないかと。

町長 まず、芦田川の河川の草刈りを行って頂いている皆様に、感謝を申し上げる。本当に助かっており、これからも続けて頂ければと思い、大変な感謝を申し上げる次第である。

立科町は平成の合併議論があり、平成17年には自立の道を選択し、行政と町民の皆さんが一体となってまちづくりを進める「協働のまちづくり」を進めている。河川の草刈りは、地域の役割として共助にあたり、立科町の自立堅持に向け、地域の皆様にもその一翼を担って頂いている。

一級河川である芦田川は、河川法で県が管理する事になっている中、整備方針として、河川施設の美化活動等への住民参加の促進を位置づけており、地域での活動に対し報償費の支給、また、傷害保険の加入により活動を支援している。当町におい

ても、一級河川の河川愛護活動を行っている地域活動を支援すべく、立科町河川愛護活動補助金を創設している。

民間の任意団体に補助金を出して草刈りを任せる事については、県で行っている河川愛護活動支援事業では、地域自治会、老人クラブ、小中学校、企業、地域ボランティア等、概ね10名以上で組織する各種団体で登録頂ければ、報償金の支給を受ける事が出来、併せて町からも河川愛護活動補助金を支給する事が出来る。新たに取組んで頂ける団体があれば、申請等の方法は建設係でもご説明出来るので、まずはご相談を賜りたいと思う。



榎本 真弓
えのもと まゆみ

観光に対する行政の役割について

問 立科町・茅野市にある白樺湖エリアの令和5年観光利用者は、年間211万人であり、長野県主要観光地上位50地域中7番と高い数字である。蓼科牧場は69万4千人と29番目であり、県内外から多くの観光客を迎えている。その価値の認識、立科町への効果、将来にわたっての活用を伺う。

町長 観光エリアだけでなく、関係人口の創出になる。将来における移住にも繋がっていく大きな期待となる。

問 索道事業の指定管理者導入のメリットと経済効果は。

産業振興課長 土地賃貸料1千万円、施設使用料800万円、リース料820万円、営業収益0・5%が納付される。また、従業員の雇用や観光客がもたらす経済効果は大変大きい。

問 白樺高原国際スキー場のスノーボード滑走を可能にしたことをどう考えるか。

産業振興課長 滑走は、今シーズンで3年目となる。令和4年スキー

場利用者は9443人、令和5年は1万2992人。3549人増となり、スノーボーダーが増えたことによるものでスキー場集客の効果は大きい。

問 町長就任後に行った索道事業の指定管理者制度導入を、高く評価する。「スキー場を守る」という町長の考えを伺う。

町長 観光地のシンボルであり、私の公約でもある。売り上げも3億3千万円となり13年前の水準となった。指定管理者制度を導入したことは大きな成果と考える。

問 観光事業後継者へメッセージを。

町長 後継者の新しいアイデアなどを実現できるよう、町も全力で支援していく。



白樺高原国際スキー場 PR ビデオ



今井 英昭
いまい ひであき

令和7年度予算編成における方針について問う

問 令和7年度予算編成の基本的な考えは。

町長 ①重点指針に基づく施策に財源配分②限られた財源の中で、選択と集中により事業の重点化を徹底し、魅力ある資源を最大限活用③新たな時代に適合した持続可能な町づくり④厳しい財政状況の中で、前年踏襲の固定概念からの脱却⑤厳しい財政状況を全職員がしっかりと認識し、歳入全般で積極的な財源確保に努め、国及び県等の補助制度の情報収集と活用策を徹底的に調査検討し活用すること。

問 各課からの予算要求にあたり、効果検証、再構築等についてどのように指示しているのか。

総務課長 職員自らが各分野の課題や実施事業の状況を把握し、真に必要な事業かどうか、町民目線に立ち、その必要性・緊急性等を徹底検討し、既存事業の見直しを行うように指示をしている。具体的方法として、全事業で役割、手法の適正性

等を再考し、向上を図るため、各係等において最低一件以上を目標に事業の中止、廃止及び改善を行い、事業見直しシートを提出させている。

問 監査委員及び議会からの意見等の対応をどのように指示しているか。またそれが対応できる体制ができていますか。

総務課長 それらの意見等や今年度の事業実施経過を踏まえて、内容を整理した結果を、予算要求に反映するように指示している。担当課では判断が難しい案件や他の課との調整を要する案件等、その内容に応じて、理事者をはじめ組織全体で連携しながら予算編成に当たっている。

結 令和7年度の財政見通しについて、町税をはじめ、全体として大幅な増加は見込めないということだ。だからこそ、トップセールスによるデータセンター等の企業誘致や町有林の整備に伴うJークレジットの導入研究など積極的な取り組みが必要と考える。

また専門的知識・ノウハウを有する人材を人件費の負担することなく受け入れられる、企業版ふるさと納税を活用した人材派遣も財政負担軽減に有効な制度であるため、今後検討が望まれる。

エアコン設置に補助制度を

問 地球温暖化が急激に進む中、熱中症対策は待ったなし。エアコン設置への補助制度の新設を。

町民課長 長野県の省エネ家電購入応援キャンペーンを活用してほしい。小中学校の体育館へのエアコン設置は広域避難所でもあり、必要だが。

教育長 一番暑い時は夏休みになる。大型扇風機などで対応する。

問 体育館へのエアコン設置について国は緊急に3年間に限り、補助率を2分の1に引き上げた。ぜひ進めてほしいが断熱が条件。慎重に考えたい。

教育長 補助制度については承知しているが断熱が条件。慎重に考えたい。予約なしで町民に開放する公共施設のクールシェアについてはどうか。

教育次長 中央公民館の図書室をクールシェアスポットとして利用してほしい。中央公民館の和室を開放した。建設環境課長 今年から庁舎会計室前の「陽だまり」もクールシェアスポットに指定した。

農産物の収入保険への掛け金補助を

問 農産物被害が増えている。被災時の保険が重要だが、収入保険の実態は。また全員への補助が必要だが。産業振興課長 収入保険加入への補



村田 桂子
むらた けいこ

助は令和4年から保険料の3分の1以内、法人については上限なしで補助している。認定農業者は10万円、その他は5万円が上限。当町は期限措置がないなど手厚く支援している。

物価高騰下の暮らしの支援策は

町長 令和2年度以降交付金活用で立科応援商品券配布を12月末まで実施。「あったか灯油券」の支給は。財調基金など活用して前倒しを。

町長 国の交付金があればやりたい。子どもの医療費窓口の完全無料化自治体は77市町村中26になった。町でも実施すべきでは。

町民課長 子育て負担軽減の観点で言われるまでもなく無くす方向で検討。高校生への支援が乏しい。中学卒業時に祝い金制度などできないか。

教育次長 本年10月より児童手当が高校生まで拡充。所得制限の撤廃も国による支援が充実したので町独自の支援は考えていない。また現在、義務教育修了の子どもに対し新たな支援策の最終調整をしている。令和7年度当初予算に計上する。



一般質問

質問者による要約

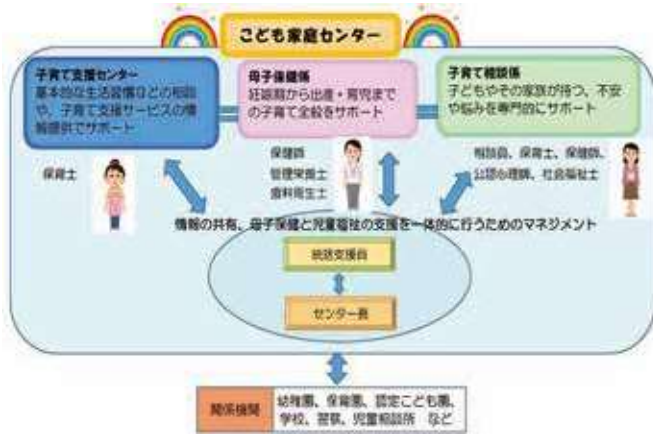


秦野 仁美
はたの ひとみ

子ども・子育て世代への
細やかな支援について

問 令和6年4月に設置されたこども家庭センターの現在の取組状況を伺う。

町長 設置場所は役場町民課内。業務の内容は、これまでの業務を統合・継続する形で専門職員の配置等人員体制を充実させ、連携協力し、子ども子育て家庭に対してきめ細やかな相談支援の充実を図っている。



問 4月に設置してから現在までの実績は。

町民課長 検診などの場や窓口、電話等での相談及び情報提供などは日常的に行っている。

これでいいの？ 立科教育③
どうなるの？ 部活動地域移行

問 立科町のこれまでの取り組みと現在の進捗状況は。

教育長 今年度中に部活動運営協議会を立ち上げるための準備会を設立予定である。

教育次長 長野県保健厚生課学校体育係には、総括コーディネーターが配置されており、地域移行に向けて自治体の相談窓口・連絡調整を行っている。町では、この12月に総括コーディネーターの派遣をしていた、だ

これでいいのか立科教育④
小学校の老朽化について

問 老朽化が進む小学校校舎に対して、町長はどのような未来像を考えているのか。町長の小学校に対しての未来図・未来予想図を伺う。

町長 建築から47年が経過する中、老朽化も進み年々施設の修繕も大規模になってきている。施設の長寿命化を図りながら、他の公共施設整備との順番や財源を考慮しなければならぬ。近い内にその判断はしていかなければということとは事実だと思っている。



村松 浩喜
むらまつ ひろよし

今年度事業の自己評価

問 12月 は来年度の予算編成を検討する時期だ。今年度を振り返ることは必須だと思う。町長は今年度の予算編成で、①④の重点指針を示した。今年度これまでの自己評価を問う。

町長 ①住んでみたい、生み育てたいと思える町づくりⅡ各種施策により、人口の社会増がある。移住・定住促進住宅が令和7年度に完成予定。空き家の利活用関連業務を民間に委託。子育て支援のため、子ども家庭センターを設置。②安心・安全で持続可能な町づくりⅡ中央公民館及び周辺施設の整備は非常に大きな問題なので、慎重に検討している。たてしなびによる情報伝達は定着してきた。鹿の檻^{おりのな}の遠隔操作、公共施設のオンライン予約システムなどでDXを推進した。役場業務の効率化も進めている。③豊かな資源を活かした町づくりⅡテレワーク推進事業を担う一般社団法人の設立を計画した。女神湖・白樺湖の遊歩道整備、クロスカントリーコースの整備などにより、観光地の魅力を高めた。観光振興推進会議を立ち上げた。町有林を計画的に伐採し植林した。伐採した木材は新築

する町営住宅にも使う。④環境にやさしい町づくり―権現の湯にバイオマスボイラーを導入することについて、燃料調達や財源確保を検討した。

① 今年度の実績 ② 来年度の見込み

問 遊休農地の利活用は。

産業振興課長 ①遊休荒廃地の目標面積300haに対し、現在323ha。②遊休荒廃農地の復旧施策を継続する。

問 別荘地の整備・貸付促進は。

総務課長 ①全1595区画のうち1012区画を貸付中。②個人用に加え、大規模区画も新規の誘致に努める。

問 健康ポイント・介護予防ポイント制度の充実は。

町民課長 ①介護予防ポイントの参加者は、昨年度59名、今年度は11月末で84名。②内容を見直して継続する。

問 解体・撤去した特定空家の跡地の取り扱い。

建設環境課長 ①建物所有者の土地を差し押さえた。先月の公売に応募なし。②再度公売にかけるか検討する。

問 タテシナソンの費用対効果は。

企画課長 ①大学等との関係性を高めるため、今年度から、参加学生の在籍校や後援団体等に報告書などを送付した。②内容を見直して継続する。

結び 町政全体を通して、町民の暮らしや気持ちに寄り添いつつ、小さいながらもキラリと光る町づくりを望む。

都市農村交流施設
「農ん喜村」について

問 道の駅に今後期待することは。

町長 一番期待しているのは、基幹産業である農業の振興である。農産物直売所が生産者の身近にあり、農産物の付加価値化により所得を高められることは、高齢農家や小規模農家の生産意欲の向上や生きがいづくりにつながり、農地が保全されることで荒廃化の抑制が図れるものと期待をしている。

また、新たにツアーデスクを設置し、町の観光案内や白樺高原の情報発信など、観光案内所の機能を兼ね備えた施設としても改修を行った。白樺高原と里エリアの連携が図られ、将来的には農業を白樺高原宿泊者のアクティビティプランとして誘客を進めることも可能になったのではないかなと思っている。農業の生産性向上や観光地の宿泊等、地域に活性化をもたらすものと期待している。

問 農ん喜村から耕福館駐車場へ誘導を促す看板が必要であるが設置しないのはなぜか。

町長 確かに、農ん喜村の第一駐車場・第二駐車場を通過して、上段にある眺望のよい耕福館の駐車場ということがあると思う。耕福館へ行く、そのことについては、これから一考する必要があるかも知れない。

それがどういふふうな看板でいいのか、あるいはどういふふうな方法論があるのかというのは検討する余地はあると思う。

問 指定管理者納付金について協議するとどういった内容か。

町長 令和7年度の納付金については、来年度の年度協定締結前に協議をさせていただきたいと思う。また、令和7年度で現在の協定が終了する。新たな協定となるので、令和8年度からの指定管理業務仕様書により、納付金を定めたいと思っている。



今井 健児
いまい けんじ



提案する耕福館駐車場への誘導看板設置場所

問 ゴルフ大会のような景品付きボッチャ競技大会の開催は。

教育次長 ボッチャは、幅広い年齢層が参加できるスポーツ競技であり、講習会を開催しているが、町で大会を開催するまでには至っていない。

問 デジタル教科書で変わる学びは。

教育次長 デジタル教科書は、電磁的記録教材であり、音声読み上げ機能や書き込み機能等による学びが期待されている。

問 役場庁舎内の町民スペースに資料閲覧用の机と椅子の設置を。

町長 役場庁舎内2階会計室前に「陽だまり」というスペースを設け、行政資料の閲覧場所として8席分の椅子と2台の机を用意している。

問 町長室の見える化の考えは。

町長 町長室の見える化は考えていない。

問 老人クラブ補助金に定額制度も導入しては。

町民課長 老人クラブ補助金の支給方法・算定方法の変更は考えていない。夢科高校について町の現状認識と対策は。

教育次長 夢科高校の生徒数は減少し、募集定員に満たない状況である。県立高校のため、町が主体的に運営方針や業務執行に関することはできないが、今後も夢科高校の振興発展のため、要請行動や陳情行動等に努めていく。



宮坂 幸夫
みやさか ゆきお

問 子ども議会を町職員が傍聴して感じたことは。

教育次長 子ども達の発想力に富んだ自由な意見を聞くことができ頼もしく感じた。

問 たてしな保育園周辺の環境整備に伴う職員負担軽減を。

教育次長 保育キーパーが、保育園周辺の県道沿いや駐車場等の環境整備業務に当たっている。

問 長和町と町職員の人事交流をすすめる気持ちがあるか無いかを「〇・×」で答えください。

副町長 長和町にこだわらず、必要であれば実施したい。職員交流事業は、双方の団体が合意して初めて成り立つものであることを理解いただきたい。

問 町職員の時間外勤務に係る支給対象人数・平均支給額・前年比は。

総務課長 令和5年度の町職員の時間外勤務に係る支給対象人数は68人、平均支給額は13万1227円。職務加算支給対象人数は62人、平均支給額は3万9311円である。課長級職員の平均年収は765万1957円である。

問 町かどオフィスの現状は。

町長 町かどオフィスは、地域おこし協力隊からの提案を受け、空き家活用に取り組む協力隊の活動拠点として、令和2年10月から町が建物の一部を借りている。歴史ある建物を利用すること自体が空き家活用事例になると考えている。

問 町の会計年度任用職員を選挙立会人として。

総務課長 町職員が地区役員で、その投票区の投票立会人に選任される場合を除き、町職員を投票立会人とすることはない。

議員との意見交換会 グループ募集

広報広聴委員会からお知らせします。

立科町議会では、町内の様々な団体・グループの皆様から
お話を伺う意見交換会『聴かせてください。あなたの気持ち』を開催しています。
そこで、ご希望のある、団体・グループの皆様を募集させていただきます。
このページにあります連絡先に、ご連絡をいただければ幸いです。

聴かせてください
あなたの思い

議会だよりの

表紙写真等を



募集します

立科町議会が発行する
「議会だよりの」の表紙に
掲載する写真や絵画等を
募集します。

詳細内容は、町ホーム
ページでご確認ください。



表紙写真撮影者

昨年2月5日の昼から降り出した雪は、6日の未明まで続き、一面の雪景色に。

「そうだ、あそこに行ってみよう」と出かけて来たのが、交流促進センター、通称「耕福館」。この駐車場はドクターヘリの発着場になっているが、普段は駐車している車が少なく、静寂な場所。

眼下に広がるは、先人が知恵と技術を結集した堰を守り受け継ぐ田園集落。遠くに見えるは浅間山、黒斑山、高峰山、三方が峰、烏帽子岳の二千メートル級連峰。この二つが調和して創り出す農村空間。それを満喫できる隠れたスポット。

「おい、みんなー、元気にやってるかー」と大声で呼びかけたくなる場所。そこでの一枚です。

小野沢常裕

議会活動について「ご意見・ご要望」をお聞かせください。

発行／長野県立科町議会 編集／広報広聴委員会

〒384-2305 長野県北佐久郡立科町芦田2532番地 TEL(0267)88-8413 FAX(0267)56-2310

E-mail gikai@town.tateshina.nagano.jp URL <http://www.town.tateshina.nagano.jp>



議会ホームページ

編集後記

以前、「半分、青い。」という朝ドラがありました。

西高東低となる冬の時期、立科の空を見上げると、上田方面は曇って雪がちらつき、南東の佐久方面は晴れている。そんな現象がこの時期時々見られます。

立科町に住んでいるからこそ見られるこの空、おもしろいと思いませんか。

冬の時期、寒い季節ではありますが、時には気分転換に半分青い空を見上げるのも良いかと思います。

芝間 教男

○今後とも「議会だよりの」をご愛読ください。

広報広聴委員会

委員長
副委員長
委員

村田桂子
小野沢常裕
森澤文王
村松浩喜
芝間教男
今井健児
宮坂幸夫
秦野仁美